

## 雲雀丘学園高等学校 第63回卒業式

### お祝いのことば

第63期の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

昨年、雲雀丘学園は創立70周年を迎えた記念すべき年でした。校庭の人工芝化やクラブハウスは完成し、記念事業の中核となる文化館は現在建設中です。一方、昨年は今まで経験したことのないコロナの災禍を受け、学園は全力で感染の防止や授業の継続に取り組みました。卒業生の皆さんも高校3年生という大切な時期と重なり大変な思いをされたかもしれません。

しかし大学進学を控えた高3生は今も昔も泣きたくなるほど苦勞するものであり、今年をどうのこうのと言うほどのものではありません。ましてやそれを理由にして自分の可能性を狭めないでほしいと思います。皆さんの未来は無限に開いているものであり前途洋々、むしろ、コロナ禍は得難い経験であり自らの成長の糧にしてほしいと思います。

学園の創立者の鳥井信治郎はわずか14歳で「小西儀助商店」という薬問屋に丁稚奉公に出されます。血がにじむ修行を積み独立、数々の失敗を重ねたあと「赤玉ポートワイン（現スイートワイン）」の製造販売で大成功します。「赤玉スイートワイン」は現在も売られていますが、皆さんにはなじみがないかもしれません。少し前までは多くのご家庭で飲まれていました。そしてこの商品こそサントリーの礎を築き、世界的な企業への発展の原動力になったのです。

明治、大正、昭和を生きた信治郎は成功するまでに戦争、地震の災害、倒産の危機や、家族の不幸に遭遇します。しかし、そのたびに苦難に立ち向かい、自分の成長のバネにしています。皆さんに求められるのは困難に立ち向かう強い心ではないでしょうか。

雲雀丘学園にとって今年2021年は「REBORN 2021, WITH CORONA」の年となります。創立70周年に一区切りをつけ、新しく生まれ変わります。コロナで大きく変化する生活様式や社会経済のしくみ、それに伴う学校の変化に果敢に挑戦しようとするものです。まさに学園の「やってみなはれ！」です。

皆さんに求められるのはそうした社会経済の変化にあって逞しく「生き抜いていく力」です。学校と実社会の比較のたとえに、学校は解答がある課題に取り組むところ、社会は正解のない課題に取り組まねばならないところと言います。大学を出て社会に出るまであと4年、それ以降は現実の社会に飛び込まねばなりません。高校の卒業はゴールではなく新たな挑戦の始まりなのです。

やってみなはれ！

常務理事・学園長 岡村 美孝